

沖縄県特定妊婦等支援臨時特例事業 県の事業としてスタート

教育学研究科教授／一般社団法人おにわ代表理事 上間陽子

1

オリオン奨学財団の助成金を受けて、「若年出産応援施設 おにわ」のモデル事業（2021年度～2023年度）をコンソーシアムで実施。

おにわ

共同代表
本村真琉球大学教授

共同代表・現場監督
上間陽子琉球大学教授

スタッフ10名
24時間365日
スタッフ常駐



特定妊婦
2年間で11名の受け入れ。
最短3日～最長160日

出産受け入れ：琉球大学病院（周産母子センター）
周産母子センター教授 銘苺桂子

オリオン奨学財団

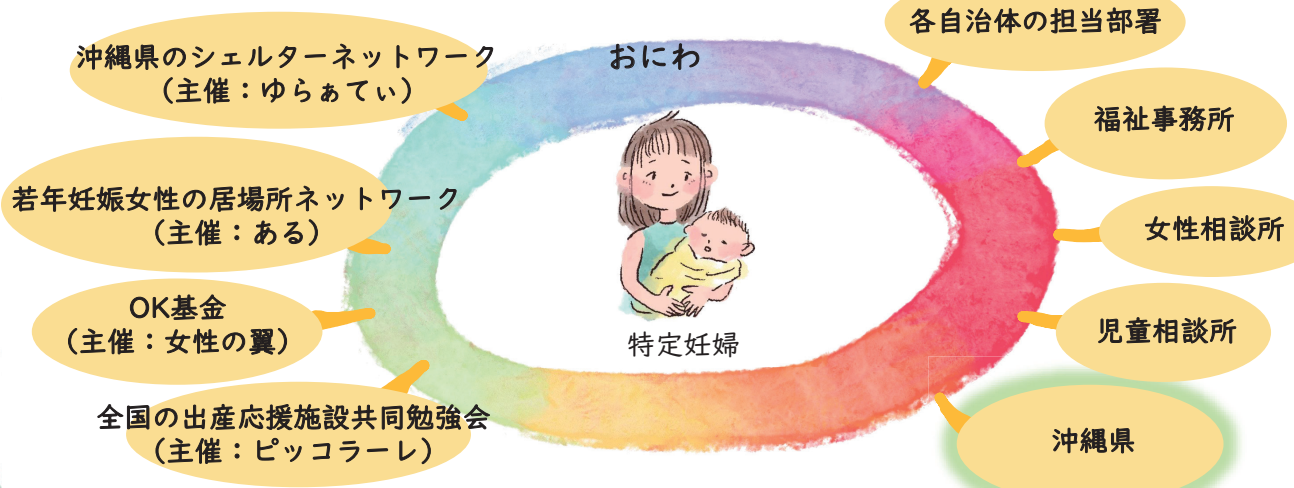
株式会社アソシア

公益財団法人
みらいファンド沖縄

2

〔関係機関との連携事業〕

これまでおにわは、民間団体の連絡協議会や要対協に参加してきた。



今回からは県と一緒に事業をすすめることができることに期待している。

3

〔おにわが母子にしてきたこと①〕 安全な環境で暮らす

毎日、温かい出来たてのご飯を食べることができる。
毎日、快適な自分の部屋で眠りにつくことができる。
自分の身体を清潔にすることができる。
身体の不調に気がつくことができる。
病院に行こうと思うようになる。
子育ての手技を身につけることができる。
子どもの清潔を保つことができる。



おにわのリビングや母子の個室、
入居しているママリクエストのご飯

快適な環境で暮らすことではじめて自分や子どもの快・不快にも気がつく

4

〔おにわが母子にしてきたこと②〕 心と身体の安心をつくる

若い女性は身体の回復が早い。

- リプロダクティブヘルツ/ライツ
- 家族計画と性的自己決定の学び
- 希望者への避妊リングの挿入支援

ほとんどの女性が暴力と性暴力のサバイバー。

- 医療受診最大5科
- 精神科の同行支援
- スタッフ全員参加のスタッフミーティングでケースの検討
- トラウマインフォームドケアの視点を持った生活支援
- 精神科医（斉藤里菜氏）からスーパーバイズ実施

思春期後期にケアテイクになる困難さを軽減

日本財団からの寄贈
「ポケット避妊教室」



スタッフミーティングで使った
テキスト

〔おにわが母子にしてきたこと③〕 行政とつながる

ママのなかには、自分の住民票のある場所を把握していないひともいる……………。

- 親・家族を失っている。
- 親子失調で転々と居所が変わり、住民票のある場所と実際の場所が違う。



入居している母子ひとりぶんのファイル



① 手続きを利用するための手続きが必要。

- ・確定申告 ・生活保護 ・児童手当 ・児童扶養手当
- ・居所の確保……etc

② 要対協にて、関係機関との接続をはかる。

③ 子どもの出産を契機に行政とつながる。

社会資源を使える状況をつくる

〔おにわが母子にしてきたこと④〕 地域での生活基盤の整備

おにわを出て地域で暮らすために、

- ①子どもの保育園入園手続き
- ②子どもの定期健診
- ③未解決のDV・性暴力の問題の着手
→法テラス、警察同行・女相保護。
→今回の事業からは弁護士も参加。
- ④地域に戻ってからの生活相談
→**里帰りレスパイト**によるアフターフォローの実施



おにわで生まれた子どもたちの里帰り

地域で母子の健康と育ちを守る

〔おにわの実施体制①〕

医療との連携に加えて、今回の事業からは弁護士との連携開始

一般社団法人 おにわ

24時間365日
スタッフ常駐



特定妊婦

株式会社 アソシア

公益財団法人
みらいファンド沖縄

出産受け入れ病院 琉球大学病院周産母子センター 周産母子センター教授 銘苺桂子
トラウマ関連のスーパーバイズ とよさきメンタルクリニック 精神科医 齊藤里菜
母子の発達のモニタリング かみや母と子クリニック 小児科医 前田志保
法律相談 ひかり法律事務所 弁護士 古謝千尋

〔おにわの実施体制② スタッフ10名〕



■支援コーディネーター —— 1名（看護師）

■看護師等の配置—— 1名（看護師） 1名（助産師）

■母子支援員の配置
——保育士（1名）、社会的養護関連施設従事者（1名）、おにわの業務経験者（3名）

■アフターフォロー関連業務 —— 1名

■事務員—— 1名



+ 代表理事（STM開催・宿直そのほか）

〔おにわの実施体制③ 緊急時の対応〕

A 現場

①現場には24時間365日スタッフが常駐。

B 医療

- ①医療者3人による対応。
- ②確実に医療アドバイスが受けられる体制。

C 警備

- ①警察の110番緊急登録完了。
- ②今回の事業から民間の警備会社を導入。

母子の命を
預かる現場

〔おにわの実施体制④〕 入所の受け入れから退所までの流れ

入所まで（関係機関・行政担当）

- 入所打診
- 入所選定会議（運営会議）
- ハンドリングの機関決定
- ママの見学・入所説明
- 入所決定
- 誓約書「おにわの約束ごと」提出
- ママが入所 生活開始

おにわでの生活（現場スタッフ）

- 出産
- 出産前準備
- 法律相談
- 退所後の居所の整理開始
- 各種行政手続き開始
- 病院同行開始

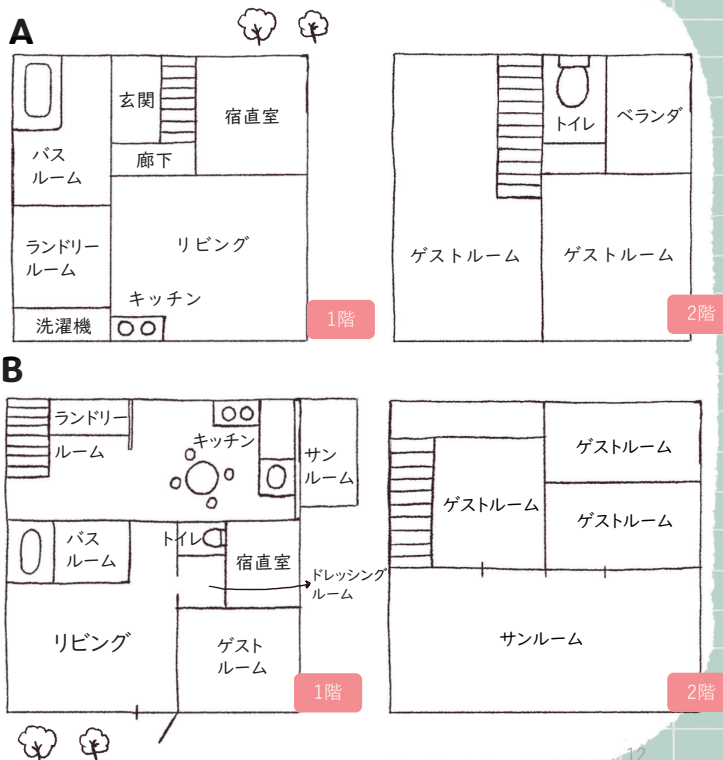
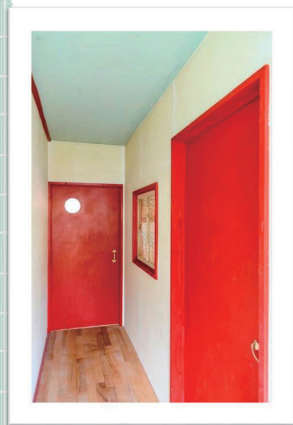
- 希望者・ミレーナ相談と手続き
- 法律相談
- 病院同行
- 行政手続き
- 手技の指導
- 居所確保
- ミレーナ挿入生後百日記念撮影

退所に向けて（住民票自治体）

- 退所
- アフターフォロー開始

〔おにわの場所と部屋〕

現在稼働しているAから、
琉大病院の移転を見据えて段階的にBに移行予定。
→2世帯から4世帯規模へ



〔一般社団法人おにわ設立〕 今回の事業にむけて法人化

代表理事	上間 陽子	琉球大学 教授
理事	伊禮 悠記	おにわ現場統括 看護師
理事	玉城 愛	沖縄女性史研究者
理事	仲宗根 幸子	しのめケアハウス代表 女性の翼理事 元女相長
理事	宮城 朋子	子どもシェルターおきなわホーム長
理事	二宮 千賀子	Co-Link 代表理事
監事	古謝 千尋	ひかり法律事務所 弁護士



振袖や子ども服は全国からのご寄贈。生後100日のママの振袖の着付けはボランティアが、お祝い膳はスタッフが用意している。

ママたちのことば

自分よりももっと大変な人がいると思うから、自分は大丈夫。

今までずっと大人が決めてきたからどうせ大人が決めるんでしょう。

ごめんごめんごめんごめんってひたすら謝ったら怒りはおさまる。

望んだことをやってもらえたことがないからだはず。あきらめるのは。

DVではないと思っていた。

病院にカップルできているひとみたら、みんな不幸になれて思ってしまう。

選んでいいの？

こんなにかわいいって言われたのはじめて。

市役所のひとの説明わかりやすかった。

ずっと大変だったけどおにわにつながるためだったと思う。

内視鏡検査やらないでいいって。病院が話を聞いてくれました。

役場のおかげ！

入院して一番苦手だった助産師が一番好きになった。

考えるの
疲れた。

2年半、外に出てないんです。

幸せになりたい。

あこがれの保育園に入れました。

SOSを出していい。自分で決めていい。望みを実現できるための働きへ。